

令和5年度第1回名取市市史編さん委員会 会議録

日 時 : 令和5年5月25日(木) 午後1時30分～午後3時

場 所 : 仙台北法務局名取出張所2階 会議室1

出席委員 : 我妻諭委員長、瀧澤信雄副委員長、恵美昌之委員、笠原信男委員、菅野正道委員
藤澤敦委員、相澤秀裕委員、江田佳子委員、太田良一委員、山田よし子委員

欠席委員 : 千葉正樹委員、奥山浩二委員

事務局 : 齋藤正光教育部長、中島千鶴子市史編さん室長、浅見智彦課長補佐、
遠藤晶乃主幹兼係長、東郷芙美主査、鳥居建己市史編さん専門員、
劉明達市史編さん専門員、小野寺崇良市史編さん専門員、鈴木舞香主事

1. 開会 (午後1時30～)

2. あいさつ

〔我妻諭委員長より挨拶〕

事務局

規程により委員長が議長となり、今後の議事については委員長の進行となります。

3. 議事

委員長

議事に入る前に事務局から会議の記録等の説明があります。

事務局

今回の会議は規定により公開の対象となっています。会議の記録は初回開催の際の決定通り概要記録としてよろしいでしょうか。

委員長

傍聴の方はいらっしゃいますか。

事務局

いらっしゃいません。

(1) 令和4年度事業報告

委員長

それぞれの部会から報告を頂き、その時にご意見ご質問等あれば伺っていきます。

令和4年度の全体の動きを事務局からお願いします。

事務局

〔資料に基づき説明〕

委員長

ただいまの説明に関して皆様からご質問等ございますか。

それでは続きまして部会から報告をお願いします。

委員

原始・古代ということで旧石器時代から縄文弥生古墳、奈良、平安時代ぐらいまで幅広く扱います。前半は主に考古資料、後半の奈良平安時代については考古資料と文献資料をもとに編さんします。

昨年度は資料の名簿にある 10 名に部会員をお引受け頂いて、2 月 20 日に第 1 回の部会を開催しました。執筆の担当は決まっております、今後の特に資料調査の進め方等について協議をしております。新規の文献資料というのは中々出ないものですが考古資料は過去の調査資料が沢山あるので、基本的にはそれをまとめていくという方針で合意されました。ただし考古資料の中でも十分報告できていないものについては現在の実態を調べていくこととなります。旧石器時代の考古資料は野田山遺跡という 1 か所のみに限られる事情もあり、執筆の担当の方から補足的な調査の提案がありましたが、土地を管理している病院から病棟の性質の関係上遠慮して頂きたいという回答を受け取りました。もう 1 つ、愛島に市指定史跡の笠島廃寺という古代寺院跡がありまして戦後頃に調査された模式図、簡単な見取り図のみでその後全く調査が行われていません。執筆のための材料があまりにも少ないので測量かごく小規模であっても発掘調査をこれだけでもしたいという話を事務局としました。しかしながら新年度予算では認められませんでした。経費を節減してなんとか調査をできないかと考えております。ぜひ皆さんご支援をお願いしたいと思っております。

原始古代編は最初の刊行なので、かなり急いでやらないといけないことが懸案です。今までの調査等の考古資料を中心にしたデータの整理を編さん室に頼んでいて、だいぶ進めて頂きました。それをもとに今年度は資料の状況を確認して各執筆の先生方が何をどういうふうに使いたいかを固めていって写真撮影等の具体的な作業を始めていきたいと考えています。そのための今年度の最初の専門部会を 6 月中には開催したいということで現在日程調整を進めています。

委員長

只今のご報告に関して皆さんのほうから何かご質問等ございますか。

委員長

笠島廃寺の予算要求状況はどうなっていますか。

事務局

測量の範囲や方法等を今後打合せさせて頂いて 9 月補正を目指して調整を進めています。

委員

財政的な問題もあるかとは思いますが何卒よろしくお願い致します。

委員

いまの笠島廃寺の件ですが、原始古代編は刊行が早いため調査が遅れるほど執筆が大変だと思います。できるだけ早めに補正を取って頂いて調査をして頂ければと思います。せっかく市史編さんをやるのに新しいものがないというのは味気ないので、そういうことを念頭にぜひ考えて頂きたいと思います。

委員長

そのほかに皆様のほうから何かございますか。

なければ続きまして中世部会の報告をお願いします。

委員

中世部会は令和 11 年度に近世と一緒に刊行という形です。『仙台市史』と『岩沼市史』で名取郡と捉えて調査や記述をしていることから、おおよその文献資料については掘んでいます。新規の中世文書が見つかるというのは極めて難しいと思われませんが、近世の資料の中に書き込みや写しの形で出てくる場合がありますので近世部会と情報共有しながら少しでも新しい資料を探して紹介できればと考えております。

現時点での中世部会は私のほかに 2 人で、担当は、1 人は平安時代後期から鎌倉時代、もう 1 人は戦国時代の一部、それから私が戦国時代という形で考えております。南北朝時代、室町時代の担当がまだ決まっておりません。やるべき事として 2 つ大きなものがあります。1 つは名取市内にある城館です。前の市史ではほとんど記述がなく発掘調査されているものも僅かです。現存する城館について、戦国時代の研究等で縄張図と呼んでいる、こういった構造物があったのかという図面を可能な範囲で取っていかうと考えています。これは 1 年に 1 か所ぐらいずつ進め、それほど大きな経費はかからないでできるだろうと思っています。もう 1 つは、中世の石碑、板碑と呼ばれているものです。名取市では把握されているもので約 600 基、調査によっては 800 基ほどあります。この板碑については名取熊野部会でも調査対象になるため、名取熊野部会と調整、検討しながら考えていく必要があります。ただ、本格的に調査すると結構な時間、人手、経費がかかるため、課題があります。そのほかの活動としては 3 人で名取市内を一通りまわらせて頂きました。あとは名取熊野部会と合同での高館地区の巡検もやっております。

委員長

いまのお話についてご質問ご意見ございましたら発言をお願いします。

委員

板碑については刊行の際に名取熊野編に入れるのか、あるいは中世編に記述するのか、どういうかたちになりますか。

委員

中世編はページ数を考えると『仙台市史』の板碑編のように全ての細かな調査結果を載せることはおそらく無理だろうと考えています。そのため名取市全域の傾向や歴史的

な特色等を紹介するようなかたちになるかと思えます。おそらく名取熊野編で熊野近辺のものをより詳しくご紹介頂くというかたちが一番落ち着くのかと考えていますが、名取熊野部会と調整していくことになろうかと思えます。

委員長

そのほかに何かございますか。

それでは続きまして近世部会についてお願いします。

委員

近世部会の佐藤部会長はこの委員会に入っておりません。私は近世部会に専門部員として参加しているので代わりにお話をさせていただきます。

近世部会、現在7名の専門部員がおります。3月に2日間かけて市内を一通り回りました。課題としては、まとまったかたちで近世文書が名取市域で見つかっていないことです。できれば所在調査というものをしっかりやりたいという希望が出ております。1月21日に近世部会を開催して課題や情報の交換、名取市域だけではなくて大学や図書館等の収蔵資料の確認も必要だというような意見交換をしております。ですが外部施設で収蔵されている資料も断片的、概略的なものですので、沿岸部、平野部、それから宿場町など、いくつかの地域で核になるような資料が見つかるかという点で、今後調査研究活動をしていきたいところです。何か事務局のほうで補足あればお願いします。

事務局

1点だけ補足します。いま資料のお話が出ましたが同時に部会で問題になったのが、今回資料編を刊行しないため、市史に使用した資料の反証可能性をいかに担保するのか、それを今後しっかり考える必要があるという課題を提示されております。

委員長

ありがとうございます。皆さんからご質問ご意見ございますか。

委員

資料には講演会を令和5年から年2回くらい開催したいとあります。市民に向けての喚起というのは大変良いと思いますが、これは市史編さん室で対応可能ですか。

事務局

年に2回は難しいですが、年に1回開催しようというところです。いま計画しているものとしては企画展を7月から9月にかけて歴史民俗資料館の展示スペースで開催します。名取市の市史についての歴史を振り返る、「市史ってなあに」という企画展を開きたいと思っております。今回、近世部会で講演会を開催したいという話があったことを受けまして、第1回目は菅野先生と近世部会の佐藤大介先生に登壇頂いて、講演会を開催します。場所は増田公民館のホールで、日にちが7月23日の予定でございます。

委員

補足をいたします。近世部会では、先ほどお話ししたようにまとまった資料群が見つからないという課題があります。講演会で名取市域の江戸時代の話をするることによって、

参加頂いた市民の方から何か情報を頂いたり、あるいは関心を持って頂ければと考えております。専門委員会でお認め頂き、7月に行くことになりました。

委員長

そのほかに何かございますか。

なければ近代・現代部会について事務局のほうから報告してください。

事務局

近代・現代部会ですが、名簿の通り加藤部会長ほか8名の専門部員がおり、計9名となっております。令和5年3月2日に第1回の専門部会を開催いたしました。部会で協議頂いたこととしては、資料編を刊行しないことから、市史を刊行した後に、使用した資料をどのように市民が使えるようにするのかというところが問題になりました。そういったところを当初から想定して市史編さん事業を進めるべきという課題が提示されたところです。また、別のご指摘として高校教育の歴史総合では原資料を使って歴史を学ぶということが一般的になっており通史のみだと教育の現場に還元することが非常に難しいのではないかとこのものがございました。執筆時に参照する資料につきましては近代現代部会でも収集、分析調査する必要がございます。名取市の場合は市役所の書庫に多数の行政文書が保管されております。そういったものを収集すると同時に、名取市の元職員の方々や、地元で活躍されている地域の方々からお話を伺い、公文書では足りないような部分を補う、そういったオーラルヒストリー、いわゆる証言を活用した市史の作り方も示されております。皆様方には今後そういったところでもご協力を願うことが出てくるかと思えます。ほかに部会では地元の方が資料を持ち込んで相談できるようなイベントの開催も提案されました。それによって資料の所在確認を進めることができるとともに市民の方に市史編さん事業が進んでいることに親近感を持って頂けるというご提案でございます。次回の近代現代部会は6月7日の開催が決定しております。

委員長

皆さんのほうから何かご意見等があればお伺いします。

それでは続きまして名取熊野部会からお願いします。

委員

令和4年度で名簿の9名のメンバーが決まりました。ほかに、執筆依頼者として新宮市の国際熊野学会の方、それからまだ確定ではないですが一切経に関して交渉中の方が1人おられます。熊野につきましては今までばらばらに報告されていたものや、未報告でも貴重なもの等を整理して収録したいと思っています。6月中には部会を開いて分担を確認し、進めていきたいと思っています。調査については調整が必要なものも多いので、できるところからできるだけ進めていきたいと思っています。

委員長

名取熊野部会の報告に対して何かご意見ございますか。

委員

先ほどの板碑について熊野周辺については名取熊野部会で扱うと思いますが、大門山周辺のもは資料にあります、東の方にも板碑群があると聞いています。その取扱いはどう考えていますか。

委員

新宮寺の北の方、別当坊跡の西の周りのことだと思います。以前は大型の碑が複数ありましたが、今は片付けられたようで1基もありません。板碑に関しては大門山の板碑を中心にして、熊野堂とか吉田とかの関連する板碑まで取り扱いたいと考えています。この辺は中世部会と詰めていきたいと思っています。

委員

今年は名取老女勸請 900 年ということでマスコミにも取り上げられています。「名取老女の墓」と紹介されたりもしますが、現地の碑文では墓ではなく記念碑のように思えます。観光協会のパンフレットでも墓となっていますが、名取市史ではどういう名称で扱うのでしょうか。

委員

その件は文化財保護行政と調整しています。市史編さん以外での整合性もあるので、結論は今後出していくつもりです。

委員

委員としてはどうお考えですか。

委員

墓といっても記録によっていろいろあるので、文献などを踏まえながら適切な名称に落ち着かせようと思っています。

委員長

そのほかになにかございますか。

なければ次に移ります。専門委員会と民俗地域誌部会の報告をお願いします。

委員

専門委員会は今年 4 月 12 日に行っています。昨年度の進捗状況について各部会から報告がありました。問題として挙げられた事に、複数の部会が共同で調査に入る場合の調整があります。結論としては、編さん室を媒介にして協力体制を取りましょうということになっております。それから板碑については中世部会と名取熊野部会で調整することになり、今後の課題として挙げられています。市史編さん事業のPRについては近世部会からの提案で講演会を開催することになりましたが、市史編さん室の業務過多になるという心配もあります。PR事業は業務との調整を見ながら進めましょうという話になっております。

民俗・地域誌部会ですが、刊行は令和 10 年度を予定しております。最初の部会は昨年の 12 月 22 日に開催し、私を含めて 8 名が決まったほか、市史編さん室の専門員 1 名も部会の仕事に協力頂くということで編さん室の理解を得ております。内容の大枠は、第

1章で名取市の自然環境を説明します。第2章の地域誌では、民俗部会ですので、時代ごとよりも地域ごとの記述が中心になります。名取市の合併前の町村とニュータウン、団地を含めた11の地域を9人で分担して進めていこうと考えております。内容としては時代ごとの変化と、民俗的な視点での組織や生業、信仰や講、地域の石碑、伝説や言い伝えなどを地域ごとにまとめていくものになります。今回は地域小学校区の区分で11に分けております。小学生にとって自分たちの地域はこうですよというところを市史として提示し、そしてそれで終わりではなく、小学生が自分たちで気づいたところをいろいろ調べてまとめることで、自分たちの地域に誇りや関心を持って欲しいと考えています。第3章では名取市の民俗的な特徴を記述したいと考えております。地域誌は専門部員だけではなかなか進めることができないので、名取市郷土史会の方や地元の方々の協力を得ながら進めていきたいと考えております。

委員長

只今のお話について皆さんからご意見等ございますか。

委員

時代の特徴をまとめるのではなく、地域の移り変わりを地域単位でまとめていく、そこに小学校区を意識して頂いたってというお話しでしたが、実は閑上小学校と高館小学校では自分たちの学区を学ぼうという取り組みとして学校の学習の中に「閑上学」、「高館学」というものを入れています。ほかの学校でも取り組みが広がることを期待しているところです。それから公民館も同じように11あります。地域の結び付きということで、出来上がるのを楽しみにしたいと思います。

委員

自然関係で第1章に名取の環境と植生を入れるとありますが、ここに動物は入らないのですか。

委員

今のところ考えていませんでした。植生はイメージ的には丘陵地があって、里山があって、それから屋敷林があって、海浜の浜堤列がある、そのようなイメージを持っているところです。

委員

例えば、増田川に棲む魚や、愛島の奥にはサンショウウオがいます。樽水ダムが、あるトンボの北限だというような話もあります。

委員

第3章で名取市に特徴的な生物ということで扱えるかも知れません。今のお話を参考にして検討したいと思います。

委員

11の各地区を調査するというのですが、専門部員の了解は取れていますか。

委員

了解は取れています。

委員

一般的に民俗ではテーマ別に述べる自治体史が多いと思います。専門部員の了解が取れているのであれば良いです。

委員

幸いなことに専門部員には名取市と関係が深い人が多いので、地元の人たちに色々話を聞きながら進めていくことで可能だろうと考えております。

委員

先日、愛島塩手の佐具叡神社に行きました。そこにある実方中将のお墓と佐具叡神社跡地の間に磐境という神様が降り立つという場所があります。名取市でそういったものを見たことなかったのでも珍しいと思います。前の『名取市史』には載っていないのですが、今度は載せて頂ければ嬉しいです。

委員

民俗的には載せることは可能です。ただ、歴史的にそれが正しいものかどうかは難しいです。あの場所は旧社地として保存されておりますから、そういう意味では、地域誌で扱う可能性はあります。世代を経て伝承があり、地域で信仰されている、そういうことに意味があると思います。

委員

あの土地を大切になさっている方が居られます。

委員

その方のお宅は相当古いみたいで屋敷地が二重の堀で囲まれている。

委員

この辺も大切にお書き頂けたら嬉しい。

委員

もし記述するのであれば実方の墓、旧社地、それからお守りする人の屋敷地。そういったところをトータルでやることになろうかと思います。

(2) 令和5年度事業計画

委員長

続いて、令和5年度の事業計画について事務局から説明して、その後各部会から補足があれば出して頂ければと思います。

事務局

〔資料に基づき令和5年度の事業計画を説明〕

委員長

部会のほうから補足するような説明があればお願いします。

なければ、この計画で令和5年度の市史編さん事業を進めていきたいということによ

ろしくお願いします。それでは、次の説明をお願いします。

事務局

〔資料に基づき調査謝礼及び旅費について説明〕

委員長

委員のほうから何かございますか。

なければ以上で議事を終了したいと思います。

4. その他

委員長

皆さんのほうから何かご発言あればお受けします。

委員

今年度に入って調査が本格化して城館など外での調査活動を既に複数回行っていきます。そこで気になってきたことがあります。山に入った作業や石碑の調査をすると、かなり気をつけているつもりでも怪我などの不慮の事故というのはどうしても出てきます。それからこれは近世部会の部会長からの意見ですが、旧家に調査で入る場合に床が抜けたり家具が倒れたり等の事故、想定していなかったことが起こり得る可能性は十分にあります。今回の名取市史編さんでは、編さん室の方、それから我々のような委員あるいは各部会の専門部員、それだけではなくて調査員ですとか場合によっては協力者の方もご同行頂いて調査をするという場面が出てきます。不慮の事故が起こったときにどのような補償、対応をお考えなのか。これは現場で起こるだけではなく、移動の最中、自宅から現場に行く場合に起こることもありますし、あるいは1日何か所か掛け持ちで動く場合もあると思いますので、そういう移動中の事故等も含めた対応をしっかりとご検討頂きたい。

委員長

今の検討状況等を事務局のほうから説明してください。

事務局

ご意見頂きました通り、調査が活発になっており、事務所で働いて頂いている調査員も人数や回数が増えている状況です。最近地震なども多いので何かあったときに心配だということも考えておりました。委員については名取市の保険で対応できる可能性が高いですが、ただ移動時の事故には対応しかねるとか、地震などの災害についても対応できない可能性があります。その辺りも考慮して、補償の範囲を含め、どのようなかたちで対応できるのか検討しております。財政当局とも調整して、なるべく早く準備したいと考えております。

委員長

広範のことが想定されるので今検討していますが、検討しているうちに事故が起きると大変なので、できるだけ急ぎで準備します。

委員

よろしく申し上げます。

委員長

そのほかに何か皆さんのほうからございますか。

なければ議事を終了します。長時間にわたりありがとうございました。

進行をお返しします。

5. 閉会（午後3時）

事務局

以上をもちまして令和5年度第1回名取市市史編さん委員会を終了します。